

# 日本全国へ発信！ 東京プロモーション活動 吉野の魅力伝えます

8月中旬から下旬にかけて、吉野町の魅力や特産品などを日本全国の方に知っていただくため、東京各所でPR活動を展開しました。吉野の魅力を活かした産業観光振興のため、今後も販路拡大や集客をねらい、情報を発信していきます。

## 東京日本橋 奈良まほろば館イベント 「木のまち吉野」

—先人から受け継いだ技術と伝統を次代へつなぐために—

17日から29日まで、奈良県のアンテナショップである奈良まほろば館にて、吉野林業や木材関連産業、木育推進など吉野町の取り組み等を紹介するイベントを実施しました。詳しくは3ページに掲載しています。



奈良まほろば館でのワークショップ杉箸づくり

## 東京日本橋 小津ギャラリー 「吉野和紙と吉野の特産品展」



期間中の小津ギャラリーの様子

「日本で最も美しい村」吉野町をPRするとともに、地域資源として登録されている吉野山・国栖の連携を深める機会とし、美しい村運動の推進に役立てることを目的に、和紙の専門店「小津和紙」のギャラリーにて、21日から26日まで、吉野の特産品展を実施しました。

吉野和紙や、割り箸などの特産品の販売、葛餅や葛菓子などの試食なども行い、吉野町の特産品をPRしました。また、期間中は、福西和紙本舗の福西正行氏によるギャラリートークや、和紙の手漉き体験も行われました。

## 東京ビッグサイト 「エンディング産業展2017」

ここ数年、人生の終わりをより良いものとするため、事前に準備を行う「終活」が話題となっています。葬儀や埋葬、供養など、終活に関する設備・機器・サービスなどの展示会が、23日から25日まで、東京ビッグサイトで行われました。吉野町からは、株式会社寺本木材が吉野材を使用した棺を出展しました。



写真提供 (株)寺本木材

## 上市スタンドの出店情報

吉野町では空き家や空き店舗を活用し、地域の賑わいをつくろうという目的で上市にある空き店舗を活用したチャレンジショップ『上市スタンド』の運営をNPO 法人空き家コンシェルジュに委託しています。『上市スタンド』は上市郵便局前の旧わたなべ呉服店の場所にあります。

お気軽にお越し  
ください



出店名	内容	開店日
花水土香	おいしい台湾茶と点心のお店。県内産の野菜や手づくりの点心のランチなどを提供。限定月替りランチあり。(ドリンク400円～ 点心300円～)	毎週木曜日 10:30～16:00
よもぎ	厳選された日本茶や和菓子の創作デザートを提供。(生クリーム大福秋限定イチジク味・小豆、季節生菓子など)	10月27日(金)11:00～ 売り切れ次第終了
夢幻堂	恵美ちゃんのほぐし処。マッサージ20分1,000円～。要予約。予約先:店主 高橋 恵美 090-8216-9329	毎週火曜日 13:00～20:00

※内容・時間等は変更になる場合があります。詳しくは下記までお問合わせください。



お問い合わせ

NPO法人空き家コンシェルジュ 吉野事務所  
電話:39-9030(9:00～17:00 定休日:水・日)



# 木のまち吉野 ～木のある暮らし～

吉野林業は、500年前から地域の経済と雇用を支え、脈々と受け継がれてきました。この歴史や木の文化を、吉野の未来を担う次の世代へ引き継いでいきたいとの想いを込め、吉野町は、町制60周年の平成28年に『木のまち吉野』未来宣言を行いました。

このページでは、森の恵みから生まれた暮らしや営み、木との触れ合いなど、吉野の木に関する「今」をお伝えしていきます。



## 『木のまち吉野』PR イベント in 東京・日本橋 奈良まほろば館

8月17日から29日までの間、東京・日本橋の奈良まほろば館にて、「木のまち吉野」をテーマに吉野町をPRする展示イベントが開催されました。

### パネル・木製品展示

会場では、パネル・立体展示物・ビデオ映像を使って、いかに流しから始まった吉野貯木の歴史、樽丸や箸などの伝統木工産業、そして吉野杉の家をはじめとする新しい取り組みなどについて紹介しました。吉野町の木製品に触れて頂いたお客様からは「香りが良い」「手触りが温かい」などの声を聞くことができました。

卵型に加工した木の玉を敷きつめた木製プール →



←木のまち吉野を紹介するパネル展示

↓吉野材を使用した木製品展示



### ワークショップ



↑角をカンナで削ることで、口当たりが良くなります

また期間内の3日間には、吉野町地域おこし協力隊によるワークショップ「吉野杉のおはしづくり」を開催し、のべ77名の幅広い年齢層の方に参加いただきました。

体験の内容は、箸の面を紙ヤスリで磨いてきれいに木目を出した後、小さいカンナで角を取り、協力隊員が手作りした松の箸袋に焼き印を押すというものです。

「木目が真っすぐできれい」「友達に自慢したい」「早速今晚の食事に使いたいけど、もったいないわ」など、体験をした方々は和やかな雰囲気の中、真剣に取り組んでいました。

今回の期間展示とワークショップを通じて、吉野町から遠く離れた東京にもこの町を愛して止まないファンがいるということを実感しました。そして私たちが日常的に見ている吉野川の風景や吉野材を育む山々も、それを味わったことのない人たちにとっては憧れの存在であり、それこそが吉野町の魅力だと再認識できました。

いまや全国に銘木として知られるまでになった吉野材。その真っすぐに伸びる木目には、先人たちからの未来へのメッセージが込められている気がします。吉野材がもつ温もりとともに先人たちが守り受け継いできた想いを伝えるには、今回のような実際に木に触れてもらう体験が大切だと感じました。そういった五感に訴えかける活動が「木のまち吉野」の未来につながっていくと信じています。



↑杉箸の温かみを実感していただきました